

(8) 多胎育児家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
多胎児親子の会への支援と連携	多胎児親子同士がつながりを深め、お互いに情報交換しながら支え合っ子育てできるように、また、親子が主体的に運営できるように側面的支援を行う。	毎月1回最終火曜日に10:30~14:30に大学の子育て支援センターを開放し、スタッフ1名がサポートに入っている。拠点を訪れた多胎児親子や、産後サポートを利用する多胎児妊娠中、及び出産した母に多胎児親子の会の存在を知らせ、なるべく早期からつながるように配慮している。	大学の子育て支援センターを利用していた双子、三つ子親子が、「子どもを連れて安心して出掛けられる場がない」「多胎児親子同士でお互いに情報交換することで様々な情報が得られ、自分も頑張ろうと思うことができる」と現状を訴えたことで、大学とともに「多胎児親子の会」の立ち上げを支援し、センターのひろば開催日とは別に毎月1回センターを開放して、会を行うこととなった。以降、スタッフが毎回1名サポートに入っている。
②基礎自治体（人口）	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
北海道札幌市 (1,947,494)	参加親子が主体的に運営できるように、側面的支援を心かけている。	多胎児親子の現状の理解。拠点スタッフに求められる技術に準ずる保育士配置。	
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
市内各区の保健センターに「双子の会」があったようだが事業は消滅してしまったことから、同事業には市内全域と近隣から多胎児親子が訪れている。NICUが併設された産院や関係機関などへの広報も当事者が主体的に活動している。お下がり交流会など自主的な支え合いもある。開設当初の参加者同士のつながりは現在も継続している。	参加親子が主体的に運営できるように、側面的支援を心かけている。	多胎児親子の現状の理解。拠点スタッフに求められる技術に準ずる保育士配置。	

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
多胎育児家庭支援「ふたご・みつこのびんずサロン」	育児負担の高い多胎育児家庭を支援するため。多胎育児家庭の孤立の防止。交流、情報提供、経験交流、ピアサポート、リサイクルを通じたエンパワメント。	多胎育児家庭という同質な参加者で、手遊びや絵本の読み聞かせなど一般的なプログラムメニューを行うとともに、多胎育児で起こる困り事や不安感、悩みを共感し合い、情報や知恵、工夫、経験を共有し、ピアサポートグループの形成を促しながら、共感的な活動を行っている。	日本多胎支援協会の要請によって10年ほど前に取り組んだ多胎育児家庭支援がきっかけ。その後、多胎育児家庭の職員が勤務し、「ふたご・みつこのびんずサロン」の名称でピアサポートやリサイクル、お楽しみ会、父親の学習会（パパも一緒にびんずサロン）などへ拡大。数年前に保健センターの多胎育児家庭支援の事業が中止され、唯一の活動となっており、近隣保健センターからの紹介もある。
②基礎自治体（人口）	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
埼玉県新座市 (164,767)	親の倍以上の子どもの参加があるため、スタッフを加配し、安全で親が話しやすく、満足して参加交流できるよう努めている。必要に応じて参加しているようで、期待も大きく、積極的に参加してよかった、続けてほしい、もっと早く来ればよかった、との声が多い。	多胎育児に関する知識と理解	外出の負担が多胎家庭は大きいことから、産後、半年を過ぎてからの参加が多いが、もう少し早く来れるような支援があれば、送迎など、と感じる。産後のサポートの充実があればと感じる。
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
多胎妊娠から参加する者もいる。特別な状況の子育てであり、その特殊性を共有できる場として、参加者は頑張っているよう、期待も大きく、積極的に参加してよかった、続けてほしい、もっと早く来ればよかった、との声が多い。	親の倍以上の子どもの参加があるため、スタッフを加配し、安全で親が話しやすく、満足して参加交流できるよう努めている。必要に応じて参加しているようで、期待も大きく、積極的に参加してよかった、続けてほしい、もっと早く来ればよかった、との声が多い。	多胎育児に関する知識と理解	外出の負担が多胎家庭は大きいことから、産後、半年を過ぎてからの参加が多いが、もう少し早く来れるような支援があれば、送迎など、と感じる。産後のサポートの充実があればと感じる。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
多胎育児家庭支援「パパも一緒にびんずサロン」	多胎児家庭の父親を支援することを目的とし、一般的な父親と異なり、育児協力が不可欠な状況に困惑しがちで、孤立、孤独に陥りがちな父親の状況をケアし、支援することを目指す。	多胎育児家庭の父親向けのサロンとして、遊びや絵本の読み聞かせなどを通して親子での交流＆フリートークを行うとともに、「ふたご・みつこの父親プログラム」（独自に開発した）を提供している。	父親の協力が不可欠な多胎育児家庭だが、支援の殆どが母親対象となっていることから、父親への支援の必要性を感じ、多胎育児を研究する研究者や支援者の協力を得て、プログラムを開発。その実践の中で、日常的な拠点での多胎育児する父親の支援プログラムとして結実した。
②基礎自治体（人口）	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
埼玉県新座市 (164,767)	ファシリテーター役のスタッフが、交流が進むように参加してフリートークを進行するようにしている。父親の参加は貴重な機会と捉えて取り組んでいる。	多胎育児に関する知識と理解。父親とのコミュニケーション力、ワークライフバランス、父親支援の知識と技術。	仕事と子育てで疲れている多胎育児家庭の父親たちにとって、ピアグループと出会うだけで力になることが事業を通して感じられるが、参加のハードルは高い。少数でも継続すること、参加した後も母親たちのように父親たちもつながっていけるよう支援をしたいと考えるが、継続し続ける意志を保ちつつけることは課題である。
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
多胎育児家庭の父親と出会い、交流する機会が初めて、という父親がほとんどで、機会を得たことでエンパワーされた様子が母親以上に大きい。少し先に行く父親の話や体験話を提供することで、現在の負担感が軽減されていく様子がある。	ファシリテーター役のスタッフが、交流が進むように参加してフリートークを進行するようにしている。父親の参加は貴重な機会と捉えて取り組んでいる。	多胎育児に関する知識と理解。父親とのコミュニケーション力、ワークライフバランス、父親支援の知識と技術。	仕事と子育てで疲れている多胎育児家庭の父親たちにとって、ピアグループと出会うだけで力になることが事業を通して感じられるが、参加のハードルは高い。少数でも継続すること、参加した後も母親たちのように父親たちもつながっていけるよう支援をしたいと考えるが、継続し続ける意志を保ちつつけることは課題である。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
双子・三つ子ちゃんの日	多胎育児家庭の仲間づくり、交流、親子あそび、悩みの共有	・カラダをつかって遊ぼう＆おしゃべり会 ・保育園に遊びに行こう（保育園の園舎、園庭開放に参加）お出かけサポート付き（希望者） ・リユースの日（双子・三つ子限定、衣類や育児グッズを譲り合う日） ・臨床心理士の講座「子どもの心と親の関わり」お出かけサポート付き（希望者） ・布絵本グループのおもちゃで遊ぼう＆おしゃべり会 ・公園であそぼう	・もともとは行政の事業であった。 ・双子三つ子どうしが悩みや疑問を共有し、育ち会える仲間づくりが必要
②基礎自治体（人口）			
神奈川県横浜市西区(98,021)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
・双子だからこそ共感し合える子育て、家事の悩み ・双子の妊婦さんが先輩ママから教えてもらえることも多く、楽しいです。 ・パパも参加し家族ぐるみでの交流ができる。	・年間通して内容を工夫し、参加しやすい雰囲気を作る。 ・おでかけサポートをつけ、外出のお手伝いをする。		多胎家庭への周知 拠点未登録の多胎児家庭にむけては、行政からの案内・周知が必要

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
ツインズデー	多胎児家庭のつながりづくり、情報交換	月1回、2時間程度、ツインズデーを行っている。工作やふれあいあそび、音楽あそびや日々の困り事などをおしゃべりできる時間を設け、保健師さんや多胎児サークルの代表者を招いての座談会など、毎月テーマを決めて実施している。	行政、市内に多胎児に関しての支援がない中、拠点に来ている多胎児育児ならではの悩み、子どもの育ちに悩んでいることを話せる場を作りたかった。今の拠点には駐車場があるため、多胎児を連れて来やすい条件でもあることから開催している。
②基礎自治体（人口）			
香川県坂出市(54,222)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
保健師さん、多胎児サークル代表者、子育て支援コーディネーターを交えた座談会では、夫の家事育児分担から多胎児ならではの子育ての悩み、今後の見通しなどについて話し、参加者の皆さんが「楽しかった」と笑顔になって帰られたことが印象的でした。	多くの多胎児家庭に知ってもらい参加につながるよう、ひろばの通信とは別にチラシを作り配布。HP等でもお知らせしている。		参加者が少なく、交流につながりにくいこと。

（９）発達の違いや障がいがある子どもの家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
ノーマライゼーションにもとづく「ふらっと」	お子様の成長や発達に不安を持つ3歳までの未就園児の親子を対象。国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園職員が児童館に赴き、その親子への相談にのる。	発達障害の診断を受けておらず、市内に在住する3歳までの未就園児とその家族に、児童館内に遊びのスペースを設けて、必要に応じて相談を受け、支援をしていく。	ノーマライゼーションにもとづいた、遊び場の設定を新規事業として立ち上げを考えていたところ、青少年課より秩父学園の「出張なないろ」という出前相談事業の話があり、手をあげた。地域に眠る親子さんの課題への支援をしたいと考えた。
②基礎自治体（人口）			
埼玉県所沢市(343,993)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
まだ第1回（10/23）しか実施していないので不明。	一部屋専用のスペースをつくっている。	秩父学園職員の専門的知識・技能。児童館職員の保育士技能	対象児童と一般児童との差別化の方法が難しい。初回は9名の参加があったが、多すぎて観察・相談ができないため、人数制限を次回から検討する。同時に行っている「おひさまひろば」との関係性も課題。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
2 ①事業名 気になる子のサロン	子どもの発達に不安や心配がある保護者が、子どもの事や自分のことを自由に話せる場の設定。	月に1回、10:30から13:00まで自由に話せる場として、先輩ママや支援をされている方も来ているので、先の見通しや情報交換ができる。また特別プログラムとしてお出かけプログラム、クリスマス会、ミニコンサートやお話し会などしている。去年はスーシアの協力で、動物園のバックヤードを見たりした。	療育センターにつながるまで、3、4カ月の間不安を抱えた親が自由に話をできる場の必要性を感じた。施設長もかつて同じような経験をしているので、一緒に話ができる友人や場が必要であると考え、拠点開所時からそのようなサロンを作っている。
2 ②基礎自治体（人口） 神奈川県横浜市緑区 (180,382)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
療育センターの方も、親の気持ちをごさだから聞けることがあったと言われた。療育センターの中でも、親への対応を改善するきっかけとなったと、数年経ってから聞いた。	子どもの年齢は問わない。もし話したければきてと言っている。学校に入っても相談があれば対応している。	スタッフ自身も、子どもが障がいや不安を抱えていた人たちで、特に資格はないが、傾聴の勉強や親の会などで学んできている。	こんな場があるということをもっと知って欲しいが、どう広報するかが課題。口コミで来てくれる方が増えているが、もっと増えるための工夫が必要と思っている。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
3 ①事業名 障がい理解講座	障がい理解を広く進めるため、障がい児親子当事者だけでなく、子育て支援に関わる様々な方や地域の方に向けて講座を行っている。	拠点開所当時から、様々な専門性を持っている方々に、年に1回来てもらっている。今まで地域療育センター職員、障がい当事者（青年期）発達障がい支援センター長、座間キャラバン（親たちによる疑似体験）、児童精神科医、大学教授等の講演会や映画上映＆講演会を行い、11年目となる。	障がい児の親でもある施設長が、まず障がいについての理解者を地域の中にたくさん増やすこと。そのためには、知ってもらうための講座をしたり、また映画など、支援者だけでなく一般の方にもわかりやすいものを見てもらうことが必要と考えた。
3 ②基礎自治体（人口） 神奈川県横浜市緑区 (180,382)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
地域で困っている親子に声をかけることができたようになった。また自分が預かりをしている子どもへの理解が深まったことなど。	あまり専門的になり過ぎないよう、様々な方の話や映画等で聞く理解の輪を広げたいと思っている。	特になし	関心を持っている方はすんなり聞いてくれ、自分のこととして受け止めてくれる。幼稚園や学校の中で、まだまだ理解が進んでいないことを、親から相談を受けることも多い。今後は、先生方とも連携をして考えていきたい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
4 ①事業名 障がい児の親と交流する場	障がいの有無に関係なく、子どもの発達について交流し、障がい児・者の理解を促進する。また、発達について困っている親の相談場所をつくる。	同居している児童発達支援事業所の保護者も含め、誰でも参加できるように広報紙等で知らせ交流をする。障がい児に携わっている専門家や障がい児を育てた先輩保護者の話を聞いたりする。	発足当時は児童発達支援事業所がまだなく、障がいや子どもの発達について相談をする場を作らなかった。障がい児の家族だけでなく、一般の保護者も入ることで、障がいについて理解を促進したりして、地域での見守り、支援につなげたい。
4 ②基礎自治体（人口） 岐阜県揖斐川町 (22,145)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
近所に障がい児がいる家族が引っ越してきたが、どのように接したらよいかという相談や、高齢出産になるので、障がい児が生まれた時のことを思い、話を聞きたいという相談があった。	できるだけ当事者の話が中心になるように心がけている（あまり職員が中に入り込まない）。	児童発達支援管理責任者が中心になって実施している	中心になってすすめていた利用者が仕事復帰して、中心的に行えなくなり、後継者ができない。第3土曜日に実施しているため、小学生など大きな子たちも来所するので、通常の支援センター利用者が安全に遊べるようにするのに職員が必要。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
ダウン症の子どもと保護者の交流会	ダウン症児とその保護者の情報交換	地域のダウン症児とその保護者に親子で集まってもらい、お互いの悩みや疑問等について話したり、手遊びやわらべうた等の親子ふれあいあそびで交流したりして、友達作りにつなげてもらう。また、保健師や各専門家から、病気や育児について情報を提供してもらい、子育てに役立ててもらう。	「ダウン症児の保護者が悩みを共有したり、友だちを作ったりする場を設けたいが、児童館でできないか」と、地区担当の保健師さんから持ちかけてもらったのがきっかけ。また、職員にダウン症児を育てた（ている）経験者がいるのも理由のひとつ。
5 ②基礎自治体（人口）			
岡山県倉敷市 (484,174)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
この会への参加をきっかけに、児童館に遊びに来られるようになった親子がいる。	実施日の選定（なるべく静かで落ち着いて過ごせるような設定の日）。保護者のニーズを探り、それに応える情報を提供できるように、保健師さんと連携し、講師人選などをしてもらっている。	障がいについての様々な理解。子の成長に応じて、保護者が求められていることを説明できる知識など。	参加者同士が、その後うまくつながり、交流を深めていけるようになるために、私たちができる支援を模索している。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
発達がゆっくりの子どものためのグループ支援	少人数でダイナミックなあそびを行い、親子で楽しみ成長、発達を促す。	少人数でゆったりと関わりながら、体をしっかりと使ったあそびを楽しむ。並行して、母親の悩みを聞く。	発達がゆっくりな子、気になる子（人見知りが激しい、こだわりが強い、激しいあそびが好きなど）が多くなり、市の保健師さんより、月に1回行ってほしいと要請があったので始めた。
6 ②基礎自治体（人口）			
広島県三原市 (97,009)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
アンケートに記入してもらうことで、母の要望が分かる。	少人数でゆったりと関わり、母に家での様子なども聞くようにしている。	保育士	毎月決まった曜日に行うことができないので、他の療育も行かれるため、定期的に関わることが難しい。

(10) 障がいの家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
心理士の相談	子どもの成長、発達や躰について、気軽に相談できる場所の提供。	2カ月に1度臨床心理士の先生に来て頂いて、つどいの広場内で子どもの成長、発達、躰について相談できる。対象者は特になく、予約もなしでひろばの時間内に来て頂ければ相談できる。	お母さん方から子どもの成長や発達に関する相談が多く、わざわざ病院に行ったり、市に相談しに行ったりするのも大変なので、気軽に相談できる場所として始めた。また、より専門的なアドバイスができることにより、お母さん方の不安解消にもつながるのではと思い始めた。更に療育が必要な子どもを早期発見し、早期に関係機関につなげられるようにという思いもあった。
1 ②基礎自治体（人口）			
東京都清瀬市 (74,510)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
いつも利用しているひろば内で行っていることもあり、子どもも慣れており、気軽に相談できる。お母さん方も「具体的なアドバイスが貰えて、育児が楽になりました」という声が多く聞かれる。	相談されている方のお子さんをアドバイザーが預かり、お母さんはゆっくり先生とお話できるようにしている。	臨床心理士	ひろば内なので、他の利用者に相談内容が聞こえないように、場所の確保が難しい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
地域ぐるみでの障がい者家庭支援	「乳幼児を育てて いる親たちを対象 として、地域でつ ながりをつくる事 業」。 障がいがあるなし に関係なく、地域 で共に子育てして いける環境、仲間 作り、地域子育て 支援者となつたり をつくる。	Nobody's perfect プログラムを 活用し、年に2回、連続6回講 座を開催。港北区内全域に公募。 気になる親子に向けては、地域 担当保健師、民生児童委員、主 任児童委員、子育て支援者、子 育てアドバイザー、地域子育て 応援ボランティアから声かけを して申込みを促す。講座終了後、 グループでの活動、地域支援団 体との交流をしていく。	近隣地区で子どもの虐待死が発覚。どこにも声を 上げることができなかった母親を地域で救えな かったか！地域の見守りとは何だったのか、と問 い直した。ひろばを毎日開催することで、安心し て安全に過ごせる場を設営した。こんにちには赤 ちゃん事業でも働きかけ、まずはひろばを知り、 足を運ぶ。生活の一部となる。それから自分の不 安、悩みを話すことができる。スタッフ、仲間を 作る。生の声を聞き合い、話し合い、分かち合え る仲間ができ、子育てに自信をつけていく。
2 ②基礎自治体（人口） 神奈川県横浜市港北区 (341,531)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
子どもの行動、母自身 の心にプラス思考で取 り組めるようになって きた。母の意志でリハセ ンターへつなげること ができた。子どもの意 志を尊重するようにな り、声を聞く姿勢が見 られるようになった。	障がいを持っているかでは なく、育てにくさを感じ ていて疲弊している母親を誘 う。母親が障がいを持っ ているから声をかけられたの かと疑いを持つことのない よう、自然体で接していけ るよう、心配りをする。	発達障がいに関わる研修 や、NPファシリテーター 養成講座を受講。	障がい、引きこもり、虐待、DV、親子で抱 えている問題は多様であり、少しでも良い方 向に動かすには、どうしたら効果があるのか 模索している。（いつでも私たちは受け入れ ます。毎日開催のひろばでスタッフ一同で接 しています。）課題というよりは心意気です。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
手話の会	聴覚障がいの方々 が活躍する場と、 拠点の利用者との 交流を目的として いる。	月1回ママサークル「手でコ ミュニケーション」で、手話の できる方できない方も含め、手 話でおしゃべりやゲーム、子育 ての悩みを話すなど交流する。 「ろう者によるメイクアップ講 座」「手話のできるパティシエ によるプリンづくり」「フラン ス人のろう者と手話によるお しゃべり会」「携帯ホワイトボ ードづくり」など。ひろばで利 用者向けにワンポイント手話も 行っている。	聴覚障がいのママが同時期に数名拠点に来てくれ たので、サークルを立ち上げないかと持ちかけた ことがきっかけ。
3 ②基礎自治体（人口） 神奈川県戸塚区 (277,189)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
ひろばで行うワンポ イント手話で、聴覚障 がい者との関わりや挨拶 (手話)を伝えること で身近に感じてもらえ る。	サークル開催時には携帯ホ ワイトボードを用意し、手 話だけでなく文字で交流が できるようにしている。ス タッフ間で聴覚障がいの方 への対応の共有をしてい る。	手話に対する好奇心と人と 接するのが好きな人	複数のスタッフがサークルに関わってもらい たい。手話ができるボランティアを増やした い。

(11) 転勤・転居してきた家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
「初めての利用者説 明会」	初めての場所に来 やすいように。	館内の利用案内、事業説明、館 内見学。	初めての場所に足を運びづらい方もいるが、その 方たちが気軽に来館できるひとつのきっかけとし て始めた。
1 ②基礎自治体（人口） 東京都武蔵野市 (143,964)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
実際に見学すること で、次の来館につな がっている。	名前や住んでいる地域など を聞いて、参加者同士の交 流につなげる。	・市内の子育て情報 ・遊び場情報 ・参加者の不安を受け止め たりコーディネートしたり する力	広報の仕方の工夫。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
新しく町民になった方の交流会	転居してきたばかりの方が、見知らぬ土地で不安を持ちながら子育てすることへの母の負担、子への影響を少しでも減らすように。	子どもはファミリーサポートセンターのまかせて会員が支援センターひろば内で預かり、母は別室でお茶を飲みながら、引越してきたことの不安、病院や店の情報交換をしたり、慣れない場所での子育ての話題を共有している。短い時間ではあるが、子と離れることで母のリフレッシュにもなっている。	寒川町は工場も多いことから、転勤で越してきた利用者が多い。土地も安いので、家を建てる人も増えている。見知らぬ土地での生活に不安を持っている方も多い。
②基礎自治体（人口） 神奈川県高座郡寒川町(48,372)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
孤独を感じて家にこもったり、ストレスで子どもに悪影響をおよぼすことを予防できる。「温かい飲み物を温かいうちに飲んだの久しぶり」など、子と少し離れることでリフレッシュにもなっている。	支援センターを知ってもらうことにより、日中母子で出かける場所を提供。交流会での相談のみに終わらず、サポートの必要な母子には支援センターの利用をすすめると共に、必要に応じて関係機関との連携につなげるなどしている。	資格等はないが、交流会形式の開催のため、参加者に合わせて臨機応変さは通常業務より求められる。	スペースの都合や、参加者が大人数になった場合は、ひとりひとりが自分の思いを話したりできず、あちこちでの雑談になってしまう。定員に対して希望が多い場合、交流会だけではなく、母が支援センターに足を運ぶきっかけを更に考えていきたい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
転勤・転入家庭への子育て支援情報を提供	転勤・転入家庭の孤立を防ぎ、支援情報を伝えることで、子育て不安・負担感の解消を図る。	地域の子育て支援情報や小児科、お出かけ場所などについて、民間情報も含めて記載した小冊子を拠点で作成し、市役所での転入手続きの際に小学生以下の子どもがいる家庭に配布している。	転入家庭は、地域のつながりがほとんどなく、子育て支援情報や地域とつながれる場所等を知らないために、子育てで困っている保護者が多いことを子育て支援活動の中で感じていたため。
②基礎自治体（人口） 新潟県上越市(196,959)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
転入して数カ月の人が冊子を常に持ち歩き、「これがあったとても助かっています。いろいろ出かけています」と拠点で話してくれ、アンダーラインしながら活用しているところを見せてくれた。	利用者の視点に立って、日頃から質問の多いことを中心にわかりやすい言葉を使って紹介している。	地域に密着した子育て支援の最新情報を常に把握しておく必要がある。	年1回の作成だが、編集や情報の確認作業に時間を必要とする。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
仲間づくりのためのセミナー	転入家庭等が地域の子育て支援情報を得ることで、子育て中の不安を軽減し、子育てを楽しめるように。	1年に1回、転入者の多い春頃に実施。上越地域の子育て支援情報（育児サークル紹介、市の支援情報、女性相談、ファミリーサポートセンター、利用者支援等）を紹介。同じ位の月齢の子どもと保護者の仲間づくりの時間も設けている。	法人の自主事業として開始。見知らぬ土地での育児に不安を抱えている親や仲間づくりの場を求めている親子に対して、子育て支援情報を提供したいと始めた。平成25年度から市とNPO法人の共催事業とした。
②基礎自治体（人口） 新潟県上越市(196,959)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
孤立感、不安感を軽減し、地域の子育てサークル等とつながる。この会をきっかけに育児サークルや子育て情報誌づくり等のボランティアに参加し、仲間を増やしている。支援者側に回る人もいる。	前半を情報提供、後半をグループトーク等として子育て中の親子が参加しやすい内容としている。	グループトークのファシリテーターの心得。	市との共催となったことで参加者も増え、関わる専門職も増えたが、運営への考え方の違いが出てきた。

5	①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるときかけ等
	地元の方言のレクチャーと暮らしの確認	転入してきた子育てで家庭が、近所の人達と円滑にコミュニケーションできるように、「言葉」の面から支援する。	初回利用の時、出身や転入などの情報をキャッチしよう心がける。スタッフはなるべく氷見の言葉で会話し、利用者の買い物、移動などが順調にできているか、おしゃべりの中で確認する。「その言葉分らない」と言ってもらえやすくする雰囲気の中で、手作りプリントを使って楽しんで覚えてもらうようにする。	スタッフの中にもアウェイ子育て経験者があり、「かつてセンターを利用していた時、スタッフの言葉で氷見になじんだ」との話から、言葉の面で意識した関わりの必要性を感じた。
	②基礎自治体（人口） 富山県氷見市 (49,105)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題	
参加者は必ず笑顔になる。アウェイ子育てをしている親同士がつながれる。若い母と子守りの祖母が、フロアでおしゃべりをはじめ。きつと氷見愛に発展する。	利用者同士がつながった、スタッフはフェードアウトする。	地元で生活した経験と知識、周りの年配者となぐコーディネート力。氷見市史に詳しい学芸員との連携。		

6	①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるときかけ等
	アウェイ育児支援のおしゃべりカフェ	アウェイ育児をしている利用者の不安を解消し、繋がりをづくり、育児を楽しめるように提案する。	日本地図を使用し、方言、名産品当てなどで、全国から転勤で来た利用者同士の交流を図った。福井に来て困ったこと、戸惑ったことを共有し、解決できるように支援した。	スタッフの中でアウェイ育児を経験した人がいて、アウェイ育児で困っていたり、不安に思っていたりしている利用者に共感し、施設として支援していきたいとの思い。
	②基礎自治体（人口） 福井県福井市 (265,796)			
	⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
	顔見知りの方が増え、施設に度々来てくれるようになった。次回を楽しみにしてくれる声があった。	同じ境遇の方同士が気軽に話せる間になるように、机（グループ）を一緒にしていく。	特にはないが、アウェイ育児経験スタッフが行った。	これからの活動を利用者主体で動かしていくようになると思う。アウェイ育児の当事者の多くは転勤族なので、他の県に又転勤してしまうことで、支援を継続していく難しさもあるかと思う。

(12) 経済的に困窮している家庭

1	①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
	経済的困窮家庭への子どもへの学習支援、食事提供、衣服提供	生きづらさを抱えている子どもや若者の居場所づくりと生活支援。	月1回、夜に子どもや若者を対象に、無料の学習支援と食事提供などを行っている。季節に1～2回、寄贈で集めた衣服の提供も行っている。	多世代型のひろばをしている中で、課題を抱える家庭の子ども達や若者に会うようになり、学校が終わった後にも来れる居場所を提供したいと、夜に月1回実施。不登校や経済的困窮家庭の子どもで、学習支援と食事提供も無料で実施している。
	②基礎自治体（人口） 北海道札幌市 (1,947,494)			
	⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
	地域は学校のように卒業がないので、気になる子どもとずっとつながっていく。親に相談しづらいことを相談できたりしながら、信用できる大人とのつながりを作っている。	あまり人数が多くなると、子ども達と接する機会が少なくなるので、クローズ形式にして同じ人が集うようにしている。	特になし。（実際のスタッフは、教員免許保持者、社会福祉士、発達心理の学生などがいる）	若者だけの集団への対応が難しいと感じる（通常ひろばは多世代型なので、同じ世代ばかりというのが難しく感じる）。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
こども食堂	脱「孤立無援」の地域環境づくり、子どもたちの孤食の改善と栄養バランスの取れた食事の提供、子どもたちの安心安全な居場所づくり、子どもの権利条約に基づいた「生きる力」の保障につなげる	こども食堂「おかわり」は、月1回第2土曜日開催。時間は午前11時～午後3時まで。子どもなら誰でも食べに来ていい「おかわり」は何回でもOK。地域の方々と団体とコミュニケーションを取りながら、食事をしたリイベントに参加し、楽しく過ごす。地域の大人の方の参加も自由。料金は大人のみ300円。	野田市地域子育て支援事業（15年間）を通し、見えてきていることとして、親の離婚や病気、失業などから経済的に苦しく、当施設を利用したくても登録料の1500円が支払えない、保育代が払えず、3、4カ月滞納を繰り返す。子育て中の貧困が進み、子どもたちの健康状態や貧困による子どもたちの体験不足など、生活の状況が懸念される傾向にあった。
②基礎自治体（人口）			
千葉県野田市 (155,050)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
孤食の子ども達が毎回参加し、地域の方々とおしゃべりしたり、イベントに参加し、楽しく過ごす姿が見られる。学校帰りには「こんにちわ！」と声を掛けてくれる。	こども食堂が「貧困の子ども達が行く所」という風評被害がないように、子どもだったら誰でも自由に参加できることを大切にしている。また次のメニューや食材の提供者を紹介したり、毎回ニュースを出したりしている。		こども食堂をより一層利用してもらえよう、開催する回数、曜日、時間帯など考慮する必要がある。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
生活支援等の情報提供や関連機関との連携	生活支援等の情報提供や関連機関との連携を行うことで、養育者（主に母親）の負担を軽減し、問題解決へと繋げていく。	経済的な悩み、出産や育児、発達等に関する悩み、または家庭環境に関する悩み等、相談を受けた場合は、まず話をじっくり聞くことで気持ちの負担を軽減し、更に問題点を整理した上で公的な相談や援助が受けられる機関を紹介したり、連携を行っている。	利用者からの要望により行っている。
②基礎自治体（人口）			
神奈川県秦野市 (162,809)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
情報を得たり、関連機関のサポートを受けることで、不安が軽減され、今後の見通しが立てられるようになる。	常に相談者の立場に立って一緒に考え、指導的にならないようにしている。	・時代のニーズに合った知識や現代社会の実情（研修会や勉強会を行って習得） ・公的機関の情報	連携の難しさ

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
食料支援	すべての子ども達が飢えることなく成長していけること。	広場利用者への呼びかけで、使用しなかった粉ミルク、レトルトや瓶詰めの離乳食を寄付してもらい、保健所、保健センターを通じ、困窮家庭へ届ける。	広場では以前から、フードバンク、育児用品と乳幼児衣料品のリユースを行っていた。保健センターの新生児訪問、4カ月健診等で気になる家庭への提供案内をしていたところ、「粉ミルクと離乳食が手に入らないか」との要望があった。行政では3ヶ月しか援助ができない決まりがあり、薬を飲んでいて母乳が与えられない人が3ヶ月で自立できるわけがないとの判断をした保健センターが仲介となり、1年間支援をした。
②基礎自治体（人口）			
長野県長野市 (382,001)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
保健センター、保健師の理解が深まった。	「母親はきちんと食が摂れているのだろうか」ということが気になり、集まっていたチョコレートを保健師に渡すと、「クリスマスだから、と言って、お母さんに渡してみる」と言ってくれた。この時から母親への食料支援が始まった。		保育園給食がない日に体重が減ってしまう子がいることは、誰がきちんと把握しているのだろうか。知っている大人がいて、分けられる食材もあるのに、どうにもできないのはもどかしい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
5 ①事業名 不用品交換会	子育て用品の循環。いらない人から必要な人へ金銭を介せず届けることができ、ちょっと困っている家庭の一助に。	衣替えの季節に1カ月間入り口のところにスペースを設け、いつでも持って帰れるように配置。持ち込みの際には洗濯済み、汚れ、破損等をスタッフがチェックし、受け取るようにしている。	利用者から子どもの服は用品はすぐに使えなくなり、買うのはもったいない。又、すぐに使えなくなってしまう処分に困っているという声から、物をたくさん持っている人と持っていない人がいる。この企画を実施することで無理なく必要の人に物品が届く。
②基礎自治体（人口） 岐阜県大垣市 (162,038)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
気楽に何度でも利用でき、シーズンが終わると不要品に出し、また次のシーズンには大きい子でも体にあったものが手に入り、楽しいと好評を得ている。	不用品を出す際に、自分にとっては大事なもので、ボロボロになったものを出品する人がある。気持ちはわい子でも体にあったものが手に入り、楽しいと好評を得ている。		

(13) 両親が就労している家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
1 ①事業名 育休中を有効に活用してもらい子育ての楽しさを味わってもらう取組み	育休後の祖父母世帯の孫育て支援と祖父母世代から親世代への経験の継承	当該地域は、農家が多く美しい田園風景に恵まれており、地域住民との交流を大切にしている。母親の育休明けとともに孫育てする高齢者の来所を促進し、地域の十五夜十三夜の団子作りや提供された地産野菜で「おふくろの味」といわれる料理を世代交流しながら調理・共食。	祖父母世代の利用者の感想で「支援センターは母親しか利用できないと思い込んでいたが、ぐずりなどの対処に困っていたとき、声をかけられ利用し始めたところ、気楽に利用できるようになり、利用する母親たちとも仲良くなった」というものがあつた。これを機に、シニアに料理を教えてもらったり、子育てのアドバイスコーナー等を設けたり、会食後のおしゃべり会で交流を深めるようにしたところ、育休中の母親が祖母と一緒に連れくようになり、地域に拡大していった。
②基礎自治体（人口） 栃木県小山市 (166,533)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
参加者から感想や希望を聞き、地元ボランティアの調理指導者や野菜の提供者に伝えることで、活動の励みとなり次の活動への相乗効果を発揮している。アンケート調査等は実施していない。	最初は調理活動からスタートしたのですが、他に造形活動、ダンス活動等活動の範囲を広げたり、祖父母の参加を積極的に呼びかけている。	いろいろな方面から情報を得てボランティアの方とも相談して、行事食等どうしたら食べてもらえるのか学ぶ。	伝統的な行事食、主に和食中心だが、世界の料理（洋、中等）への展開も進めたいが、新たなアレルギー対応も課題となる。7～8月、6月、12月、1月等、O157等の感染症等を考慮して活動は控えめにしているが、育休明けの母親たちから7・8月の夏季休暇を利用した調理活動の参加希望があることから、この間の活動が課題となっている。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
2 ①事業名 保活の講座	市内の保育園やその申請方法について利用者支援専門員に聞き、疑問や不安を解消する。	新座市の利用者支援専門員を招き、 ・市内の保育園について ・入所申請方法 ・待機児童の状況 ・保育園以外の預け先などについて話を聞き、又、参加者からの質問に答えてもらう。	・利用者の中でも育休中や求職希望の母親が多く、預け先や保育園についての相談もよく受けること ・新座市に利用者支援専門員が配置され、利用者支援の一環として行っていただけのことになった。
②基礎自治体（人口） 埼玉県新座市 (164,767)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
育休中の母親の保育所入所に関する不安軽減の一助となった。手続きや制度が複雑なことから理解の機会となっている。	これまでに相談があつたことなど、その場で出なかった質問を参加者の前で職員から講師へ質問した。自分でも思いつかなかった疑問も他の人の質問で聞くことができるように心がけた。	講師に利用者支援の知識が必要。	利用者支援担当者が市役所に特定型が非常勤で一名しか配置されておらず、派遣に限界がある。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
育休中の親向けサロン	育休中の親子の出会いの場、情報交換、交流の場を提供する。	育休中の親子が集い、交流を行う。保活について、職場復帰に関して、子育てについてなど、フリートークや情報交換などを行う。	ここ数年で育休中親子の利用が増え、又社会でも母親が実質ひとりで家事、育児＋仕事の大半をこなさざるをえない「ワンオペ育児」が広く知られるようになってきました。その現状を受け、育休という同じ環境にある親同士が集い、話し、情報交換を通じて不安や疑問を解消できる事業を今年度より新たに設置しました。
②基礎自治体（人口）			
埼玉県新座市 (164,767)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
参加者がまだ少ないが、継続することでピアサポート関係が生まれる効果が期待できる。	不安の軽減を図れ、育休中だからできること、前向きな両立をイメージできるよう、ファシリテーションを行う。	市内の保育園情報などは定期的にチェックしています。	育休中の親子は多いが、新事業のため認知度が低い。チラシなどを作成し、利用を促したい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
職場復帰したママのことを聞く会	子育てと仕事を両立する親への横浜子育てサポートシステムの事業の周知。	市の子育てサポートシステムの入会説明会で、この事業の説明をした後、実際にサポートを利用している利用会員に、仕事と育児を家事的両立をするためのコツやサポートをどのように利用しているのかを話してもらっている。	サポートを利用しようとする方が多く、仕事と育児の両方をしていて、その方たちに経験者の話を聞いてもらおうと、参考になると思ったため。
②基礎自治体（人口）			
神奈川県横浜市緑区 (180,382)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
サポートを利用している利用会員のサポート利用についての気持ちや、感想を直接聞くことができる。職場復帰する人が、復帰後の生活について、具体的に考えるきっかけとなっている。	職場復帰する人が知りたいことについて、話してもらい、伝えるようにあらかじめジュメを作り、先輩ママに話すことを考えてきてもらっている。		

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
出張マザーズハローワーク	休職中や育休中の母親たちへの情報提供	・マザーズハローワークの職員による拠点でのセミナー。・子どもを連れてハローワークまで行かなくても、仕事と育児についての両立や職探しのヒントが得られる。	地域イベントに拠点から子育てサポートと子育てパートナーが周知の為にブースを設けていた際、隣のブースだったハローワーク職員と利用者の共通点を見つけ、拠点での講座開催に至る。
②基礎自治体（人口）			
神奈川県横浜市緑区 (180,382)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
職場復帰だが、転職も考えているなど、単に職探しのみに終わらないケースもある。相談に乗ってもらえたり、同じような利用者同士ピア相談にもなっていた。子連れでも仕事を考えるきっかけとなっている。	個別の質問や相談の時間も設ける。		講座の内容が盛りだくさんになりがちだが、焦点を絞ると該当する参加者が少なくなってしまう。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
保育園の情報提供おしゃべり会	不安解消、選択肢拡大のため。	おしゃべり会形式でファシリテーターも輪に入り、質疑応答していく。広報やチラシ提示、口コミにより周知している。	利用者の声やスタッフの経験から、園の案内だけではわからない詳細なこと（園の雰囲気など）や募集人数の現状を情報提供していくこととなった。
②基礎自治体（人口）			
岐阜県大垣市 (162,038)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
数字で提示してあると分かりやすいという声や、申請の際準備がしやすい、園の選択に迷わないという声があった。	小さな疑問でも出せる雰囲気作り、少しでも多くの方の疑問や不安解消となる情報提供を工夫している。	地域の実情に詳しい人。	普段のサロンでのおしゃべりで、利用者の疑問に即答できる情報知識をスタッフが意識して持っていること。29年度は市の担当者（保育事業）と元園長に来てもらい、説明会にした。育休中の方への対応強化のため。

(14) 子育てと介護をしている家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
子育てと介護をしている家庭への預け先の相談情報提供	子育てと介護を担う人に対して、その家庭状況に適した情報提供することで負担軽減。	介護の度合いによって異なるサービスであるので、対象者の地域包括支援センター情報提供や、階下の介護施設職員に介護の情報入手ができるつなぎ連携。	年に1～2件だが、相談として出てきた。介護のために子を預ける必要性が生じて、すぐに保育園に入園ができない。晩婚の際、子育てで親を頼ることができず、逆に介護を求められる家庭は、今後増えてくるのではないかと。経済的にも負担が生じてくるのだろう。
②基礎自治体（人口）			
神奈川県高座郡寒川町 (48,372)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
親への気持ちはあるが、他人に任せることへの罪悪感がある人がいる。直接に全て関わらずとも人の手を借りることの意味が分かり、子育てと介護の共通性も見えてくる。	他人が入ること、任せることが誰かが簡単に行動に移せることではない。また、介護の場合、「大人のため」意思表示がはっきりと出てくることで葛藤も生じる。支援する機関とつながり、子育てと介護の共通性にも行かないので、まずは専門機関の人と信頼関係を築けるまでを慎重に相談を受けている。		子育ても介護も担う人へのレスパイトが必要。保育園に入所に繋がらずとも、預けられる施設、人が必要。でも、それを実施できるにも経済的負担をどう軽減できるのか。家族、親族の関係性も大きい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
祖父母の利用促進	施設は母親だけでなく、父も祖父母も活用してもらい、母親の育児の負担感の軽減につなげる。さらに母の就労で日中子守を引き受けているケースについては、子の経験の場として、祖父母が出かけやすい環境を整える。	・すでに利用している祖父母に知り合いを誘ってもらう（口コミ）。 ・母親に、祖母同伴の利用を促す。 ・祖母年齢のボランティアを多く依頼する。	「そんな施設は若い人ばかりが集まっているのではないかと、一方的に壁を作って利用しないケース。子にとっては人との関わりや遊びの経験がないまま入所になってしまうケース。祖父母の勇氣と安心につなげる必要あり。
②基礎自治体（人口）			
富山県氷見市 (49,105)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
もっと早くここに来ればよかった。気後れしていてもったいないことに…などの声が聞かれた。	祖父については「パパ塾」の取り組みと同扱いポイント制とする。祖母については、前からの利用者で紹介するなど、安心して次の利用を考えてもらえるよう配慮。体操、座位等も配慮。	じいじとばあばのハッピー孫育て講座内容と連動させること。	グラマサークルとか提案し、活性化したい。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
ダブルケアカフェ	主に介護と育児を同時にしている家庭に育児の悩み、介護の悩み相談を一度に行え、同じ立場の人との思いや悩みの共有、情報交換の場。	利用者支援専門員、地域包括支援センター職員を配置し、お茶を飲みながら情報交換や相談を行う。	親の介護と育児を行っている人からの相談が増えてきたこと。当事者のスタッフがいたこともあり、まず集まれる場所を作りたいと考えた。
②基礎自治体（人口）			
香川県坂出市 (54,222)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
当事者になる前に会に参加して情報交換をし、来てよかったと思って帰ってもらえるようにしている。	必ず何か情報提供を行った後、来てよかったと思って帰ってもらえるようにしている。	介護サービスについての知識が少しはあったほうが良い。	周知、広報がうまくいかない。来てもらえるきっかけづくりなどの必要性。

(15) 避難してきた家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
女性のこころ相談（カウンセリング）につなぐ取組み	しんどさを抱えている女性へ、より専門的な支援を行うため。	1対1の個人面談（カウンセリング）。拠点とは離れた近所の場所で行っている。子育てのしんどさは自分の育ちが影響していたり、夫、実母、実父、義母、義父との関係のまずさからきていることが多い。DVを受けている利用者も多い。それぞれの利用者の気持ちに寄り添い、否定されることなく安心して自分を語れる場を作り、自分が主人公となって生きていくことを一緒に考えていく。	子育てにしんどさを抱えている利用者に関わる中で、DVを受けていたり、実母との関係がうまくいっていないことなどが分かってくる。それらの課題に取り組んでいくには、拠点スタッフの日々の関わりや相談対応だけでなく、専門知識を持つカウンセラーによる個別支援が必要だと感じた。
②基礎自治体（人口）			
大阪府富田林市 (113,952)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
DVを受けていた利用者が、離婚に至るまでのメンタルサポートをし、離婚後もシングルママのおしゃべり会等でサポートを続け、つながりが続いている。拠点の利用も継続し、支援者と繋がっている。	6回までのカウンセリング料は無料にすることで利用しやすくしている。また、拠点スタッフのスキルアップにより、DVを見落とさず早期にカウンセリングを案内できるよう心掛けている。	カウンセラー、女性問題やDVの知識。	個別相談であること、カウンセラーとの面識がないことなどのために、相談しに行くまでのハードルが高い。

(16) アレルギーのある子の家庭

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
管理栄養士による除去食その他アレルギーの個別相談	子育て親子の交流や育児不安等に対する相談、援助を推進し、子育て支援拠点として各種事業を実施。	子育て親子の交流の場の提供及び交流の促進。子育て等に関する相談及び援助→必要に応じて関係機関とのパイプ役となる。	関係機関との連携、地域との交流を通して除去食について、看護師、栄養士、支援センター長とミーティングを重ねる。姉妹園に管理栄養士が在籍している。
②基礎自治体（人口）			
福島県福島市 (283,493)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
保育園の給食体験や、手作りおやつ作り企画などでも、個別のアレルギー対応をしている。	活動を通して、あくまでも子育てのエッセンス。押し付けたり決めつけず、親子で楽しむことを重要とする。		無料なので、色々な方が参加している。しかし必要な方へ提供しているのか不安な面がある。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
栄養士を招いてアレルギー、離乳食の講習会	練馬区の保健相談所より栄養士を派遣してもらい、栄養士を囲み、アレルギーや離乳食のすすめ方を学ぶ	食物アレルギーと離乳食についての簡単な講義、参加者の質問に対して質疑応答（全体で共有）、個別相談など。	ひろばを利用する親子には第1子が多く、アレルギー、離乳食についての悩みが多くあった。専門である講師を招き、より詳しく正しい知識を身につける場を提供できたらと思い、近隣の保健相談所と連携し、講座を作った。
②基礎自治体（人口）			
東京都練馬区 (723,711)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
質問を全体で質疑応答することにより、悩みを共有できる。全体では質問できないことも、個別時間を設けることにより、不安気だった表情も納得して笑顔にすることができた。	親子同室の講座のため、子どもが遊べる空間を設ける。		

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
アレルギー対応の医療機関の紹介	アレルギーの子どもを持つ親の心配を軽減すること。	特定の医療機関を勧めるということではなく、母親の気持ちに寄り添いながら、母親のニーズに合った病院を幾つか紹介し、その中から母親自身に選んでもらう（例えば、話をよく聞いてくれる病院、予防に力を入れている病院、検査を丁寧にしてくれる病院など）。	アレルギーに対して詳しい検査や説明もなく、薬だけ処方する医療機関も残念ながらあり、母親からの相談が多かったため。
②基礎自治体（人口）			
神奈川県秦野市 (162,809)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
母親の不安な気持ちが軽減されアレルギーに対して前向きに対処できるようになる。	病院の良い悪いを伝えるのではなく、病院の相性、病院の特徴を伝えていく。そのために細めに情報を収集している。	研修や勉強会を行って必要な知識を身につけている。又、地域の医療機関の情報を収集して把握している。	アレルギーで悩む母親は多いので、母親同士の情報交換や講座を企画したいと思っている。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
食物アレルギーの子どもと保護者のQOL向上を目的とする取組み	食物アレルギーの当事者支援のため、常設の居場所、相談窓口を設ける。加えて、つどいの広場を通して、一般の家庭への社会的理解を図る。	当事者支援として、サポートデスク（相談窓口、交流会、学習会など、子ども向けのイベント：クリスマスや地蔵盆）。支援者支援として、各地のつどい、児童館スタッフへの研修会や地域での場作りの協同事業。社会的理解を図るために、つどいの広場の運営において食物アレルギーに配慮している。	当法人は、食物アレルギーの当事者団体からスタートした。当初（2005年）は、地域のひろばや児童館だけでなく公的施設（保育園、幼稚園、学校）でも食物アレルギーを理由に入園を断られたりする時代だった。相談できる居場所もなく、孤育ての状況にある親子が多かった。そのため、アレルギーの親子が行くことのできる常設の居場所が欲しくて活動をスタートした（2015年ひろば事業を受託できるまで10年かかった）。
②基礎自治体（人口）			
京都府京都市中京区 (105,660)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
来所初日に涙ながらに相談してきた利用者が、交流会や講座に参加できるようになり、現在では同様に悩める保護者のサポート役を務め、スタッフやボランティアとして活躍している。	個別対応とグループ対応への配慮。医療面への相談→専門医へつなげ、私たちは診断、判断する立場ではないこと。日本小児アレルギー学会が推奨している知識、情報の更新を基本としている。	医療の標準的な知識、相談（医療知識、制度、ソーシャルワーク）など。	スタッフのスキル向上（医療知識、制度知識、ソーシャルワーク）。スキルを持つスタッフの雇用、人材育成が正しい事業の予算だけでは捻出できない。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
卵と牛乳を使わない オヤツ作り講座	利用者同士の交流 を図る。子どもに 多い「卵」「乳」の アレルギーに配慮 し、安心して参加 してもらう。手作 りのおやつ楽し さを感じる。	簡単なおやつ一品を子どもと共 に調理する。できたものは全員 で試食し、意見交換をする。	手作りおやつを作る機会を持つことで、家庭での 楽しさを増やしてもらいたいという願いから。ま た、同じ作業を行い、一緒に作ったものを食べる ことで、利用者間の交流を深めてもらいたいとい う気持ちから。
②基礎自治体（人口）			
福岡県飯塚市 (130,092)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
参加者が、レシピをア レンジして家庭でも 作ってみたという。次 回の予約開始日も、 気にしてくれる人が 多く、楽しみにして もらっている。	親子で一緒に作業できると ころを取り入れる（混ぜる、 こねるなど）。	なし（たまたま職員に家庭 科教員免許がある）	活動を継続していきたい。参加希望が多く、 定員を超過してしまうので、回数を増やすな ども検討。

(17) SNSの活用

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
インターネットの活 用	就労家庭とつなが るツールとして必 須なものとして、 情報収集→提供の 一連の流れのあり 方とその内容を常 に検討し改善して いく活動の中で、 子育て環境のボト ムアップにつなが ることを目的とし ている。	・毎週1回木曜日に、区内及び 市内の子育て情報を登録家庭に 定期的にメルマガとして発信。 ・月2回子育て支援に関わる助 成金情報や研修情報を、子育て 家庭を応援する側の支援者、組 織、団体を対象にメルマガとし て発信。	行政内提案事業として当初スタート。紙媒体による 情報ツールの限界、庁内横断的な情報提供の実 現など、それまでの公民の情報発信の課題を解決 するために生まれた。当初は地域別、こども年齢 別（妊娠期を含む）と細分化していたが、今地域 別はなくなり、0～1歳、2～4歳、5～6歳、 妊娠期の4類型で、配信システムは民間業者と契 約し、拠点事業として配信事業を行っている。
②基礎自治体（人口）			
神奈川県横浜市港北区 (341,531)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
・官民協働の配信ツールなので、 配信を望む団体・組織の新たな 活動を発掘し、応援している きっかけとなっている。 ・地域支援が実働で区内を網羅 できないところを情報発信で補 てんしている。 ・拠点利用者以外の子育てに関 係のない者の多様な区民、その 力の取り組みにつながっている。	・配信するコンテンツの精査に情報 交換を含め毎月1回関係機関（包括 支援センター、主事、支援者、区保 健師など）による編集会議を開催。 ・記事の配信を希望する団体及び活 動に対しては投稿アクセスをし易い よう、HPからの対応を実施、又配信 を希望する個人には登録用QRコー ドで対応。	特に資格は必要としない が、PCに関する知識や技 術は必要。	・メ切を設けても情報提供先との関係、繋がりが ない、イレギュラー対応が出がちなこと。 ・行政情報についてはオープンデータ移行に基づ き、本ツールもアプリ開発を手がけている。シ ステム開発には市内情報関係専門学校からの作 成協力を受け、MAPデータには区民でITに長 けた一般の人達がグループ化して協力して もらっている。一方でこうした母体が区民の力と いってボランティアになっている点。

①事業名	③事業・活動の目的	④事業・活動の内容	⑤事業・活動をはじめるきっかけ等
Facebookの活 用	市内の子育てイベ ント、乳幼児健診、 図書館でのおはな し会などを載せた 子育てカレンダー 情報の周知のため (みんなに利用し てほしくて)。	子育て支援センターの運営団体 で作成している子育てカレン ダーを見て、「子どもを連れて 出かけてみよう」と思うきっ かけになればと思い、無料でな るべく公的な行事の情報を集めて 載せています。イベント情報は FAXで送ってもらったり、HP を見て正確な情報を集めるよ うにしています。	各子育て支援センター、各図書館、各公民館とそ れぞれ独自で通信を出していて情報がバラバラ。 そこで一枚で目であって冷蔵庫に貼っておける A4サイズの子育てカレンダーがあれば便利だ なという思いから始めました。自分達が欲し かったものは、きっと他の方もほしいに違いない、 という思いから、Facebookや飯塚市のHP にも掲載するようになりました。
②基礎自治体（人口）			
福岡県飯塚市 (130,092)			
⑥効果	⑦工夫している点	⑧必要な知識等	⑨課題
毎月月初めに更新する ので、月初めの閲覧が 多いです。わざわざセ ンターに紙ベースに印 刷したカレンダーを取 りに来る方もいます。	商業ベースのものは極力載 せません。オススメ講座や イベントの情報は枠外に書 き込んで丁寧に案内してい ます。	PCが使えてネット環境が あれば誰でも。カレンダー はExcel。通信はword で作成。	本当なら活動している様子などもupしたい のですが、個人情報のこともあり、なかなか できません。参加者の顔をぼかしたり、ハ ートマークで隠すということも、その方の存在 を否定するようできません。現在は子育て カレンダーと通信の掲載だけで手一杯です。

IV. 考察

1. 定量調査に関する考察

本調査の目的は全国の地域子育て支援拠点の質の向上を図る取り組み状況の定量的な把握を行い、質の向上に必要な要因や課題を明らかにすることであった。そこで調査結果に基づき運営に関わる要因と組織の特性の視点から考察を加える。

まず、運営に関わる要因として職員体制や職員への支援、そして、これらを裏付ける事業費の三点を挙げたい。職員体制については常勤、非常勤に限らず「5人以上」で質的向上に「積極的に取り組んでいる」と回答する割合が有意に高い結果となっていることから人数の充実が質の向上に繋がっていることがうかがえる。また、対象者別の取り組みでは「父親」「妊娠中の方やその家族」「発達の遅れや障がいがある子どものいる家庭」「アレルギーのある子の家庭」などで常勤が1人以上いるところで有意に高くなっており、より丁寧な取り組みを行うためには常勤の配置が有効と考えられる。

二点目の職員への支援については基本四事業の自己評価で拠点内外での研修など職員の技能向上の取り組みを行っているところが「積極的に取り組んでいる」と回答する割合が有意に高い結果となっていたり、様々な対象者別の取り組みを行う割合が高くなっている。また、職員をサポートする相談援助体制があるところも同様の傾向がみられた。これまでも子育て支援員研修や自治体による研修が行われているが、今後も継続的な取り組みが求められる。

三点目の事業費については基本四事業の自己評価で「積極的に取り組んでいる」と回答する割合が有意に高くなったのは3000万円以上となった。また、対象者別の取り組みについては「300～500万」で10項目で有意に低い結果となっており、一点目でみた職員体制の結果にもつながる結果と言える。全体の割合でみると「500～1000万円未満」が3割弱と最も高くなっており、交付金の基準を考えると平均的な運営費であると思われる。今回の結果からは平均的な運営費を下回るところでは対象を拡げて取り組むことが難しいことがうかがえる。

次に質の向上に関わる組織の特性について、外部への開放性と事業を担う人の多様性の二点を挙げたい。

まず、外部に対しての開放性であるが拠点事業を行うにあたり外部との接触を積極的に持っているということである。今回の調査結果からはともに支援や活動を行っている連携機関や団体についての設問ではほぼすべての項目で関わっていると回答したところが基本四事業の自己評価で「積極的に取り組んでいる」と回答する割合が有意に高く、対象者別の取り組みも有意に高い項目が多くなっている。また、外部から積極的に見学者や実習を受け入れていると回答したところも同じ傾向がみられる。特に対象者別の取り組みでは他の項目に比べても実施率が高い結果となった。また、有識者などへの第三者評価を行っているとするところも同様の傾向がみられる。これらのことから外部との積極的な関わりが質の向上に関わることが考えられる。

次に事業を担う人の多様性については様々な背景を持った人が事業に関わりを持っていることであり、事業を担う人の経験を尋ねた設問とボランティアについての設問からみていく。事業を担う人の経験に関しては当事者活動やボランティア、NPO、自治会などの活動経験者がいるとしたところでは基本四事業の自己評価で「積極的に取り組んでいる」と回答する割合が有意に高い。また、対象別の取り組みでも多くの項目で実施率が有意に高い結果となっている。ボランティアの人数でみると四事業すべてにおいて「積極的に取り組んでいる」が「0人」で有意に低く、「30人以上」で有意に高くなっ

た。また、対象者別の取り組みでも多くの項目で、「30人以上」で有意に高い傾向がみられた。職員、ボランティアともに様々な人材が携わること向上につながる可能性を示唆する結果となった。

外部に対しての開放性と事業に携わる人の多様性が質の向上に結びつく要因として多様な情報と様々な角度からの視点の獲得が考えられる。様々な機関、団体や多様な背景を持つ職員、ボランティアは地域のニーズや専門的な知識、技術を拠点事業にもたらしてくれる。また、同時にそれらを基にした視点をもたらし。そのことが事業のあり方を常に考え、より良いものにしていくとする動きにつながり、さらにニーズに基づいた事業の展開に結びつくと考えられる。

今回の調査では NPO 法人が基本四事業の自己評価で「積極的に取り組んでいる」と回答する割合が有意に高く、対象者別の取り組みも有意に高い項目が多くなっている。NPO 法人の活動状況を見るとこれらの特性を他の運営主体に比べて備えていることが推察される。

今後の課題について運営に関わる要因は繰り返しになるが常勤職員の配置と職員への支援体制の確立、そして、これらを裏付ける事業費の確保が質の向上を考える上では欠かせないであろう。職員の支援体制については地域子育て支援拠点事業の活動の積み重ねに対応した重層的な研修も求められる。

組織の特性でみた外部に対しての開放性と事業に携わる人の多様性については市町村・行政所管課や保健センター・保健所など公的な機関と比べて結びつきの弱い町内会・自治会など地域団体や子育てサークルなど当事者団体との関わりを強めることが必要であろう。また、ボランティアの受け入れも今回の調査ではおよそ 40%がしておらず、積極的な受け入れが求められる。

2. 実践事例の収集に関する考察

質の向上を図る取り組みを定量的に調査した 1 次調査から全国の地域子育て支援拠点では、父親支援を約 4 割が、妊婦や障がい児等の家庭支援を約 3 割が、祖父母支援や共働き家庭の支援を約 2 割が実践しており、ひとり親家庭や子育てと介護をするダブルケア家庭への支援など、今日的な課題についても支援が広がっていた。

質の向上を図る取り組みの具体的実践内容を 72 収集した 2 次調査では、利用者が抱える困りごとやニーズに支援者が問題意識を持ち、それに応える形で多様な対象と課題への取り組みが始まっていることを、多くの実践事例が示していたことから、当事者に寄り添う地域子育て支援の深化が、多様な対象と課題へと支援を広げるひとつの方向性と考えられる。

また、収集された実践の多くで「交流・サロン・しゃべり場」の活動形態が採用されており、地域子育て支援拠点の特徴である「交流支援」をベースにした支援が、派生的に広がっていると捉えられる。「講座・講習」の 3 倍以上を「交流・サロン・しゃべり場」が占めていることは、「支援者と利用者の対等で水平な関係」や「指導ではなく寄り添い」を特徴とする拠点が、課題を抱える利用者と支援者が同じ目線で課題共有し、利用者の主体性を尊重しながら、課題や困難を乗り越える方向に導く上で、「講座・講習」といった形態よりも、きめ細かな配慮の効いた洗練された活動形態が広がっているといえる。

72 の質的向上を図る実践事例を展開していた拠点は、いずれも基本四事業の質の向上を図る取り組みに対する自己評価が平均以上に高いことから、基本四事業の質的向上の積み重ねが、多様な対象や課題を捉え、具体的な支援を展開していく上で重要と考えられる。

多様な対象・課題に対し積極的に取り組む地域子育て支援拠点では、拠点事業の委託事業費以外の資金を、助成金事業などで調達して取り組んでいるケースもあることから、質の向上に意欲的な拠点を育成するための予算措置と講じることも検討すべきである。

1次調査の結果からも地域子育て支援拠点の約7割が質的向上に意欲的であることから、定量調査で明らかになった質の向上に必要な要因が満たされるよう、拠点事業の基本的な実施体制や運営体制の強化を図るとともに、本調査で収集した実践事例を実践交流や研修を通じて幅広く情報共有し、導入や実施に向けた促進策を講じることが質の向上に効果的と考えられる。